

葛尾むらづくり公社での活動

一般社団法人葛尾むらづくり公社

事務局長 米谷 量平

2023/10/14 双葉町産業交流センター

まずは自己紹介から

米谷 量平 (まいや・りょうへい)

一般社団法人葛尾むらづくり公社事務局長
福島県福島市出身 37歳

【経歴】

- 1986年 福島県会津若松市生まれ
- 1987年 福島県福島市に引っ越す（高校卒業まで福島市）
- 2009年 宮城教育大学学校教育（教育心理学）専攻 卒業
- 2009年 福島民報社 入社（記者職）
- 2011年 福島市の社員寮で被災
記者職として、災害を伝える紙面制作や被災者に寄り添った取材活動などにあたる
「東日本大震災・東京電力福島第一原発事故
「原発事故関連死」不条理の連鎖」で新聞協会会長賞を受賞。外勤1年目で初回の執筆担当
- 2015年~2018年 田村支局長となり葛尾村担当として4年間過ごす
- 2019年 一般社団法人葛尾むらづくり公社に入社（現在に至る）

【地域活動】

- 2013年~ 青年会議所（JC）に入会、2022年度田村青年会議所理事長、2021年度福島ブロック協議会副会長
- 2015年~2018年 三春ロータリークラブ（RC）に入会
- 2015年~2018年 小野町地域創生総合戦略会議委員、田村市地域創生総合戦略会議委員(2017年~2018年)
- 2019年~ ふたばエイト（双葉郡まちづくり協議会）参画、葛尾村振興計画審議会委員(2020年~2022年)
- 2022年 第2次田村市総合計画審議会委員
- 2023年 葛尾幼稚園保護者会長、葛尾村学校運営協議会委員、葛尾村花見山（仮称）基本計画検討委員 など

【趣味】

- 野球、スポーツ観戦、読書、芸術鑑賞、映画鑑賞、スノーボード、自転車、旅行、子育て、断捨離







葛尾むらづくり公社の活動を紹介する前に

葛尾村ってどんな場所？

村の紹介（位置）



葛尾村は、浜通りの阿武隈山系に属し、双葉郡の最北端に位置する。田村市船引町まで車で30分、南相馬市原町区まで45分、福島市、郡山市まで1時間と、主要都市まで1時間圏内にある。

東京まで、車で約3時間30分
(鉄道は、郡山駅から新幹線利用)

村の紹介（沿革、地勢）

◆沿革◆

江戸時代の幕藩体制下では、相馬藩の領地（現在の大字上野川、大字野川、大字落合）と三春藩の領地（大字葛尾）となる。明治22年4月の町村制度で上野川、野川、落合、葛尾の4ヶ村が合併し葛尾村となり、津島村（現在浪江町津島）と津島葛尾組合村が誕生、津島村に役場を置く。1923(大正12)年3月31日に組合村から分村し、葛尾村として単独で歩み始め、2023(令和5)年3月31日で100年が経過した。

◆地勢◆

葛尾村は、浜通りの阿武隈山系に属し双葉郡の最北端に位置する。北西に県立自然公園日山（天王山1,057m）、南に県立自然公園五十人山（887m）などの山々に囲まれ、自然豊かな農山村である。東西18.6km、南北8.6km、面積84.23km²（内8割強を森林が占める。）を有し、村中心部の標高は434mである。西から東に流れる野川川と北西から流れる葛尾川が落合地区で合流し南東方向に流れ、やがて高瀬川、請戸川、太平洋へと注いでいる。村の集落は、これらの河川の沿岸に形成され、標高300mから600mのところに住居が点在する。

村の紹介（村内の地図）



現在の葛尾村の世帯数と人口

〔R5.8.1現在〕

区分	世帯数等	人口	備考
1. 人口・世帯数	489	1,293	うち、村内居住 239世帯467人
(1)帰還困難区域	4	10	野行（のゆき）行政区
(2)避難解除区域	405	1,117	H28.6.12解除
(3)震災後新規転入	80	168	うち村外居住25名
2. 帰村者数	162	324	帰村率29.0% （居住率36.3%）
3. 避難者数		801	
(1)県内	(20市町村)	755	うち、三春町292人、郡山市208人、田村市に143人居住
(2)県外・海外	(14都府県)	46	県外45人、海外1人

〔H23.3.11現在〕

人口	1,567	世帯数	477
-----------	--------------	------------	------------

(参考) 各種指標

◆世帯数と人口の推移 (単位:戸・人)

	世帯数	人口
1955年	523	3,062
1985年	474	2,012
2000年	454	1,736
2010年	470	1,531

◆農家戸数の推移 (単位:戸)

	総数	専業	第一種	第二種
1960年	456	19	309	128
1985年	367	45	113	208
2000年	279	37	48	194
2010年	232	40	44	148

◆農地の推移 (単位:ha)

	総数	田	畑	牧草地	その他
1985年	582	208	150	199	25
2000年	482	197	159	125	1
2010年	397	183	212	133	2

◆産業分類別就業者数の推移 (単位:人)

		第1次	第2次	第3次	総計
1960年	総数	1,360	40	144	1,544
	男	658	27	93	778
	女	702	13	51	766
1985年	総数	708	227	221	1,156
	男	334	141	158	633
	女	374	76	73	523
2000年	総数	349	305	256	910
	男	166	217	137	520
	女	183	88	119	390
2005年	総数	341	282	265	888
	男	181	209	131	521
	女	160	73	134	367

村内の避難指示区域（H25年3月22日現在）



葛尾むらづくり公社ってどんな団体なの？

むらづくり組織組成の背景

長期避難による村民生活の変化 → 村内人口の急激な減少

震災前 1,531人 → 解除から半年後 107人
(2017.1.1現在)

一方復興は
着実に進ん
でいる

高齢者
が多い！

若い人と子
供が少な
い！

公共施設の適
切な管理運営
が必要！

道路や施設
の草刈りなど
共同作業が
できない！

担い手が
いない！

地区コミュニ
ティの維持が
困難！

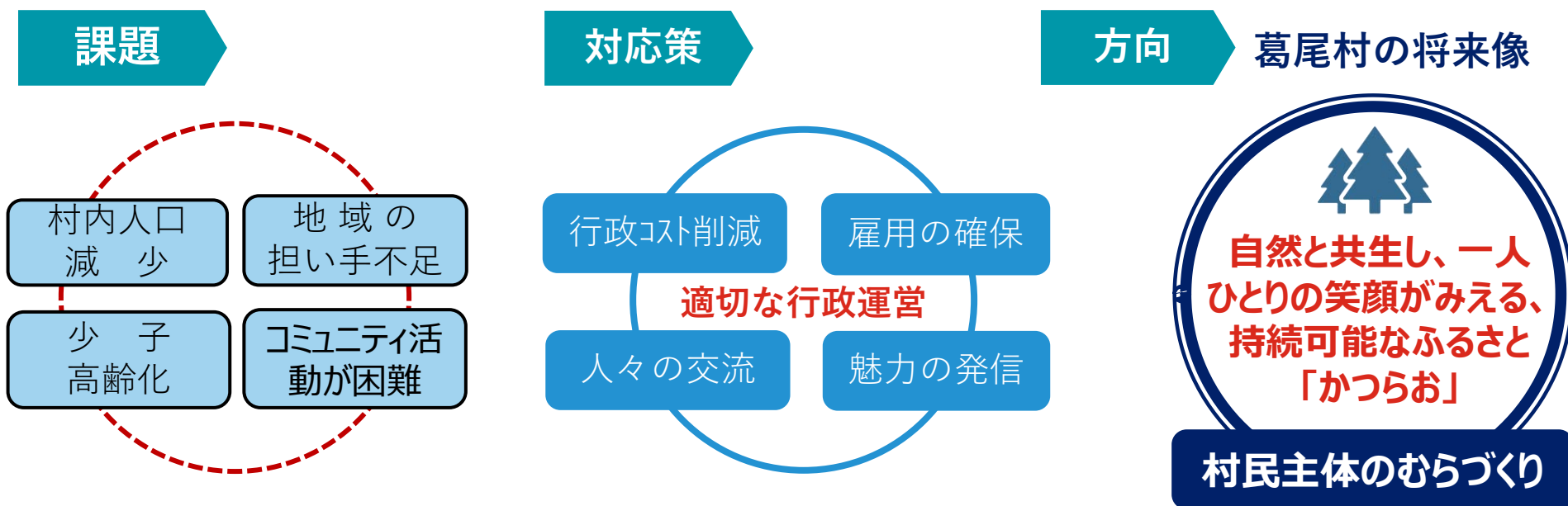
村内事業者の一
部が再開困難！

農作業が
できな
い！



葛尾村の課題と新たな取り組みの必要性

長期避難によって村民それぞれの置かれている状況が変わり、2016年6月12日の避難指示解除後の村内は、居住人口の減少、少子高齢化、地区コミュニティの崩壊等、課題が浮き彫りになりました。これらの課題に向き合い、行政機能を維持するためには、村と両輪となって復興に取り組む新たな仕組みや組織が必要になりました。



※かつらお再生戦略プランより

一般社団法人 葛尾むらづくり公社の設立

葛尾村の方向性の実現のため、人と場所を繋ぐ組織として葛尾むらづくり公社を設立

法人概要



一般社団法人葛尾むらづくり公社の概要

組織形態 一般社団法人

設立年度 2018年3月

資本構成
■ 基金:2,000万円
■ 出資者:葛尾村

組織体制
2023.10.1
■ 理事:7名 ■ 監事:2名
■ 職員等:15名
■ パート職員等:29名

主な事業
■ 公共施設の管理運営及びイベントとの開催
■ 復興支援員管理・活動支援
■ 雇用創出事業(生きがいづくり)
■ 移住定住促進事業(空き家バンク含)
■ 産品等販路拡大支援
■ 観光再生事業

葛尾むらづくり公社 事業コンセプト

ミッション（存在価値）

- 地域とそこに住む人の幸せ（楽しさ）を一番に考え、行動し実現する
- 地域とそこに住む人と行政、そしてそのほかの地域の人や団体、企業との架け橋となる
- 「葛尾村地域×新たな価値観」による新たな社会環境を生み出す



被災地・葛尾村を暮らし方の最先端の地へ
～ともに生き、ともに楽しむ循環型の田舎への進化～

コアエッセンス（らしさ）

- 地域と行政のハイブリット経営
- 葛尾村の伝統を受け継ぐ人財と新たな価値を生み出す移住者との融合
- 復興むらづくり 5つの柱

復興むらづくり 5つの柱

以下の5つを柱に、互いの価値観や違いを認めながら、楽しく共存できる職場環境、地域コミュニティを築き、最終目標として日本一住みやすい葛尾村の村づくりに貢献します。

1. 『人』と『人』が交わる『場』の創出

住む人の拠り所、絆や生きがいを感じられる拠点をつくる

2. 『人』が活躍する『場』の提供

住む人が働ける雇用の受け皿をつくる

3. 『人』と『場』の積極的活用

限られた村の財産（資産、人財）を効率的に活用し、村内環境の機能維持・向上を図る

4. 『人』を呼び込む『場』の発信

地域の情報を全国や世界に伝え、魅力ある地域、住みよい地域を知ってもらう

5. 『人』を育てる共育の『場』の提供

新たな次代を担う人材を育てる実践の機会を設ける

『人』と『人』が交わる『場』の創出

葛尾村復興交流館
あぜりあ



葛尾村宿泊交流館
みどりの里
せせらぎ荘





葛尾村森林公園
もりもりランド・かつらお



『人』が活躍する『場』の提供



村民参加型事業
(除草作業)
(公共施設清掃)



『人』と『場』の積極的活用

イベント企画・実施



(右上)能狂言
(右下)ツールドかつらお
(左上)あぜりあ市
(左下)葛尾村盆踊り





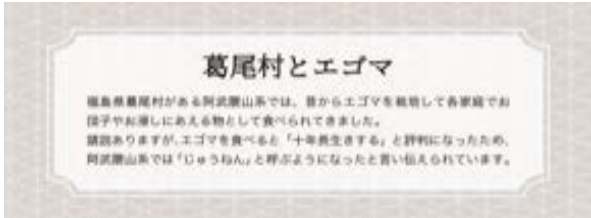
商品開発



『人』を呼び込む『場』の発信



販路拡大支援事業 ふるさと納税&かつらお物産展



葛尾村移住・定住支援センター
「こんにちはかつらお」



『人』を育てる共育の『場』の提供



復興支援員
地域おこし協力隊
活動支援事業





学生インターン
中学生職場体験
小学生総合学習
新任教員初任者研修



セミナー研修
視察研修



原発事故で『0』人になった村

一人ひとりが決断して帰ってきました

一人ひとりが決意してやってきました

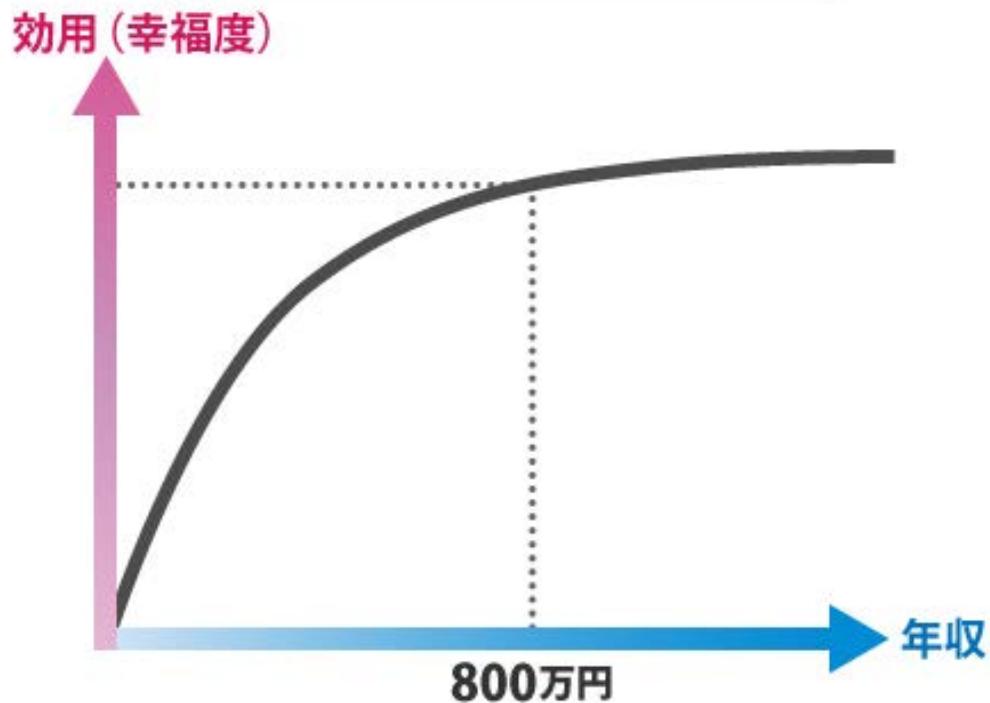
むらづくりは人づくり

葛尾むらづくり公社は一人ひとりの思いを大切に

誰かを幸せにする活動を続けていきます

最後に

年収と効用の関係



これは収入と幸福度の相関図です。

2020年頃の幸福度は年収800万円を超えると

物質的な幸福よりも精神的な幸福を追い求めるようになります。

(物価上昇により、この数値は上昇するものと推察します)

(2022年の日本国内の共働き世帯年収平均750万円、1人あたりの平均年収443万円)

集中復興期間

復興・創生期間

第2期
復興・創生期間

2011年度

2016年度

2021年度

↓
現在

2026年度

発災直後は避難者の生活や精神的ストレスに対するケア、
避難指示解除後は帰還される方々への生活インフラの整備が重要施策でした。

これまで日本全国、世界各国の多くの皆様にご支援をいただけてきました。

葛尾村では現在、経済的自立を目指し、誰もが幸せに暮らせる地域の実現に向けて
周囲を支える立場になれるよう仕組みを整える時期に来ています。

今後、日本全国、世界各国の皆様を支えられる葛尾村になれるよう
住民一人ひとりが学び合い、ともに成長できる機運を高めていきます。